

SCI-Japanウェビナーシリーズ「コロナとの共存時代のスマートシティを考える」

# ポストコロナ社会のスマートシティにおける地域コイン／ポイントの可能性

**MRI** 株式会社三菱総合研究所



# 内容

**1 導入（課題認識）**

**2 ポストコロナの潮流と社会像**

**3 地域コイン／ポイントの意義・可能性、実証・実装事例紹介**

**4 まとめ**

# 1 導入（課題認識）



ありたいライフスタイル  
ワークスタイルを実現するための

**技術活用・DX**

AWAキャンピングオフィス



徳島県神山町 古民家を使ったオフィス（株式会社Sansan）



# 取り組んでいること

地域創生 + 事業

地域創生

あらゆるひとびとの暮らし・営み  
安全・安心で

活力・意欲に満ちたもの

事業

あらゆるひとびとの営みの集合体



**ひとりひとりの働き方・暮らし方・活躍に着目**

**手段として、DXを検討**

# 縁とゆかり



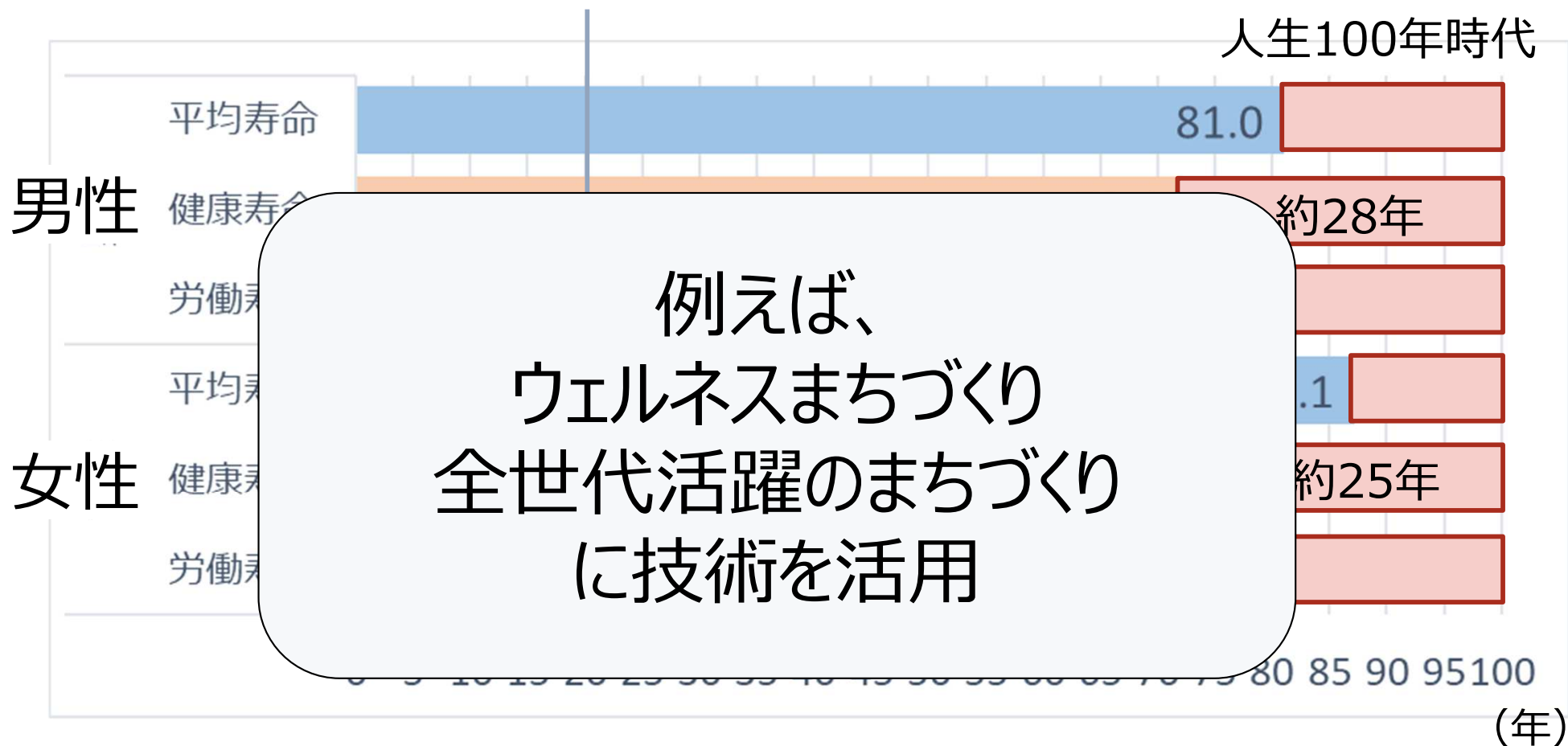
# 課題解決、ビジョン実現

大都市の都心・郊外、地方それぞれで大きな課題



特定の地域、特定の課題が取り組んでも不十分・不効率

# 例えば、健康になる



健康寿命を如何に延ばせるか？

そのために現役世代のワークスタイル、ライフスタイルはどう変えるのか？

シニアは、伸びた健康寿命で、何をするのか？

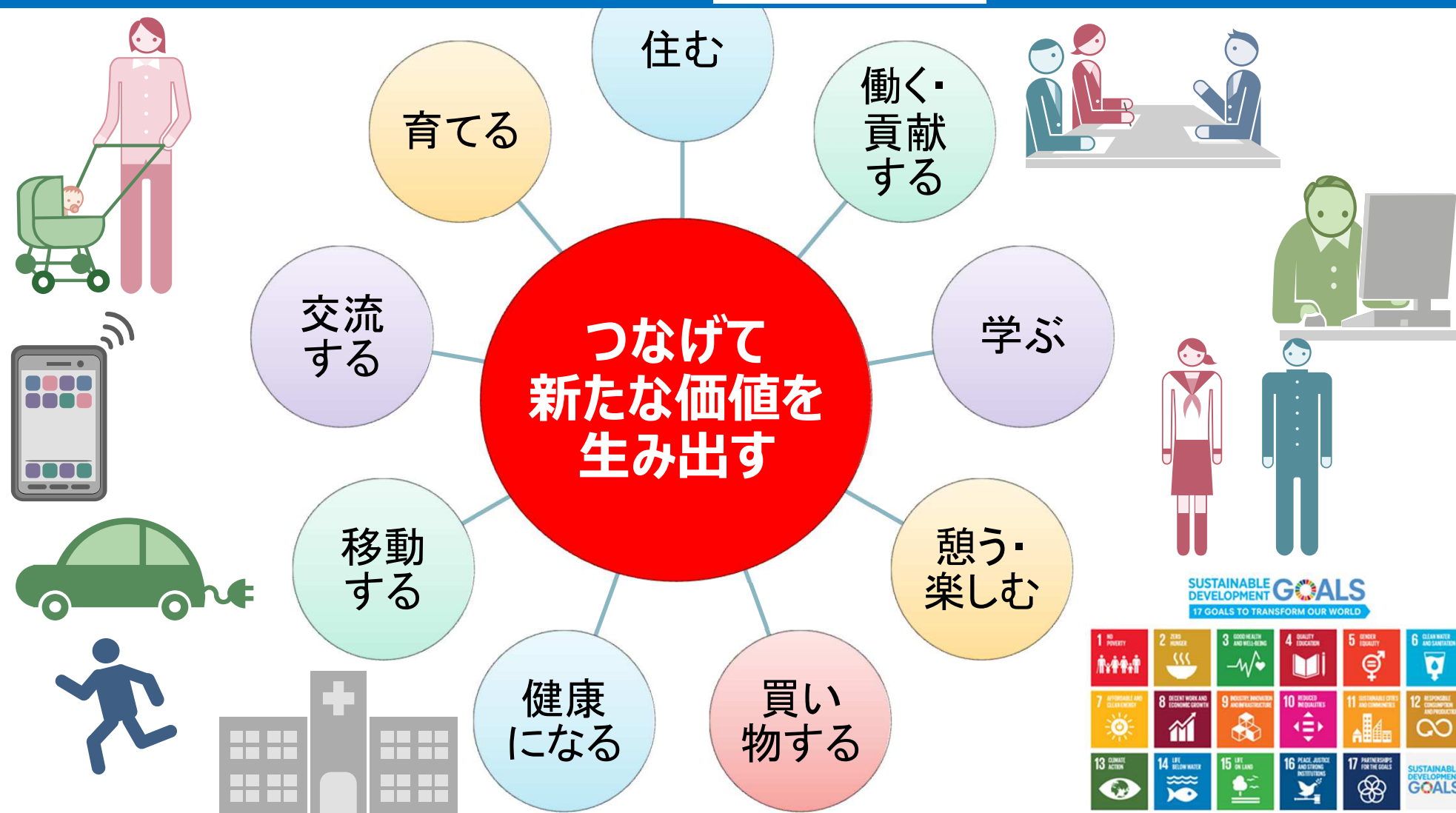
出所： 数値は、厚生労働省 第11回健康日本21（第二次）推進専門委員会平成30年3月9日 資料

健康寿命とは、日常生活に制限のない期間



# あらゆる生活の場面で、課題があり、これらを解決したい

リソース不足のなか、DXで同時解決していくことが必要



# 生活の場面ごとの意識、行動変容をうまくつないでいくことが重要



## 2

# ポストコロナの潮流と社会像

三菱総合研究所

「ポストコロナの世界と日本 ―レジリエントで持続可能な社会に向けて」(2020年7月14日)

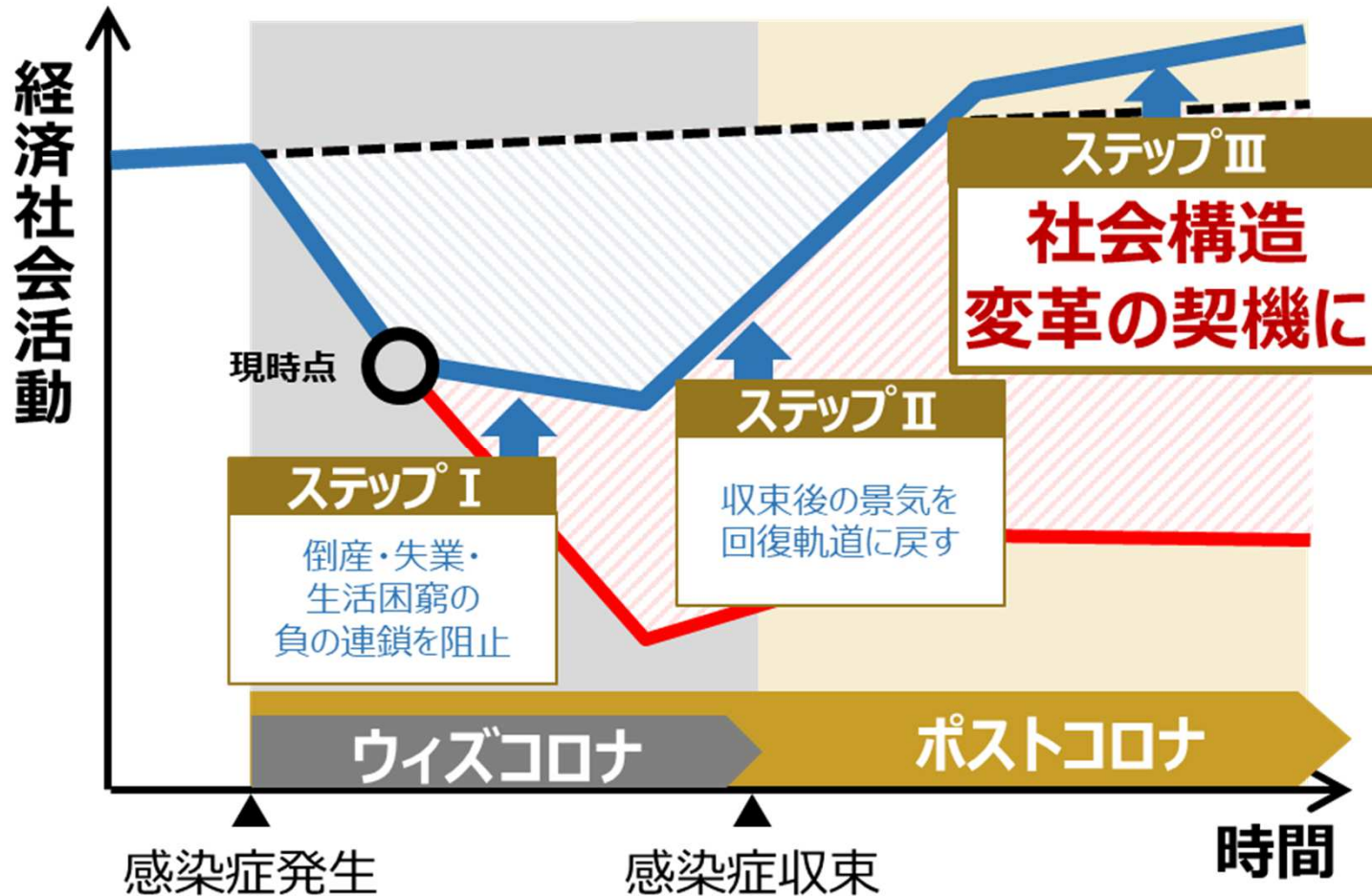
[URL https://www.mri.co.jp/knowledge/insight/ecooutlook/2020/20200714.html](https://www.mri.co.jp/knowledge/insight/ecooutlook/2020/20200714.html)

「目指すべきポストコロナ社会への提言 ―自律分散・協調による「レジリエントで持続可能な社会」の実現に向けて」  
(2020年10月19日)

<https://www.mri.co.jp/knowledge/insight/ecooutlook/2020/20201019.html>

# ポストコロナ社会の行方

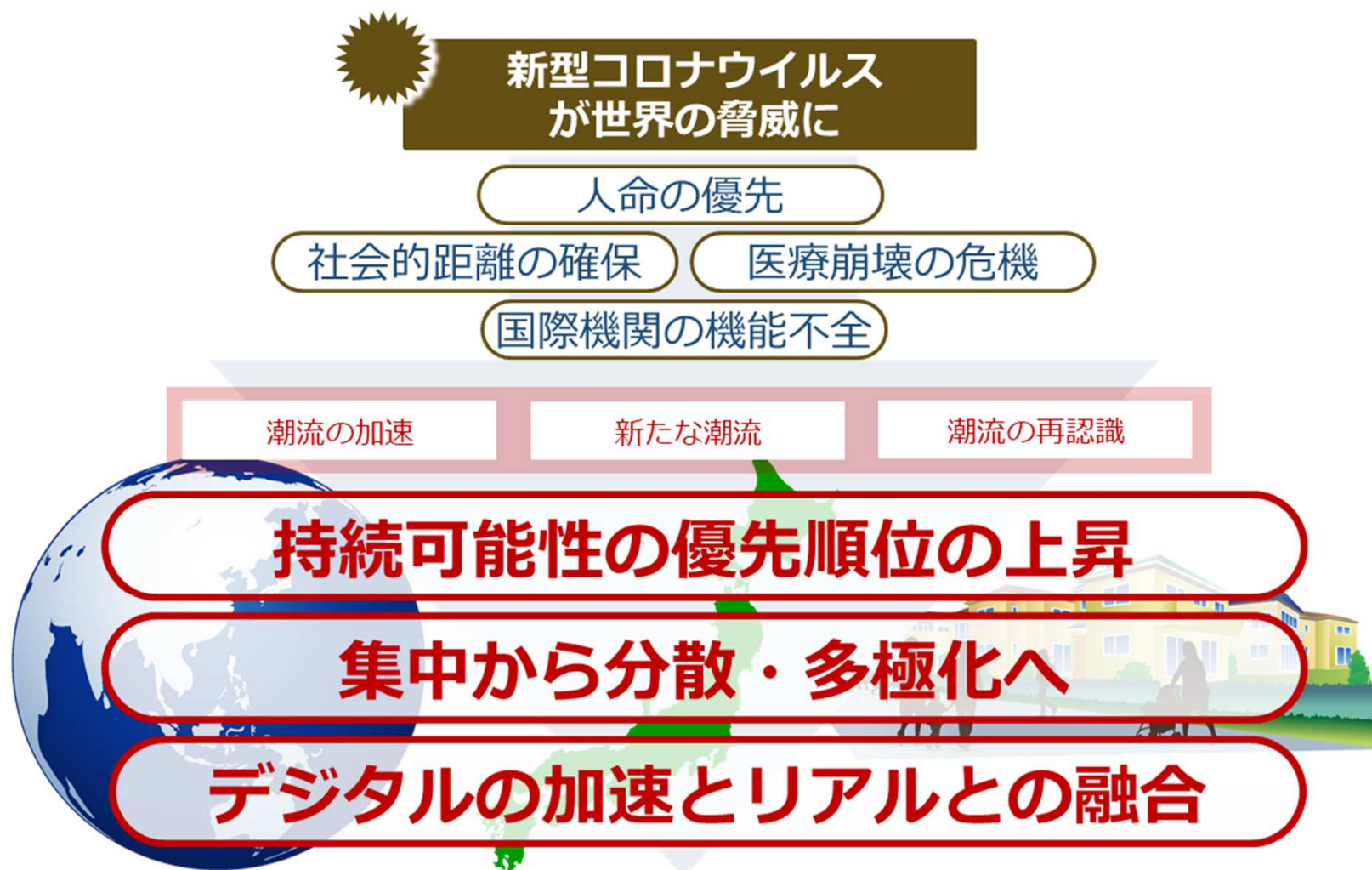
## ■ コロナショックを克服し、**社会構造変革の契機**にすべき



出所：三菱総合研究所「新型コロナウイルス感染症の世界・日本経済への影響と経済対策提言」（2020.4.6）

# コロナ危機がもたらす3つの潮流

## ■世界の潮流が加速・変化



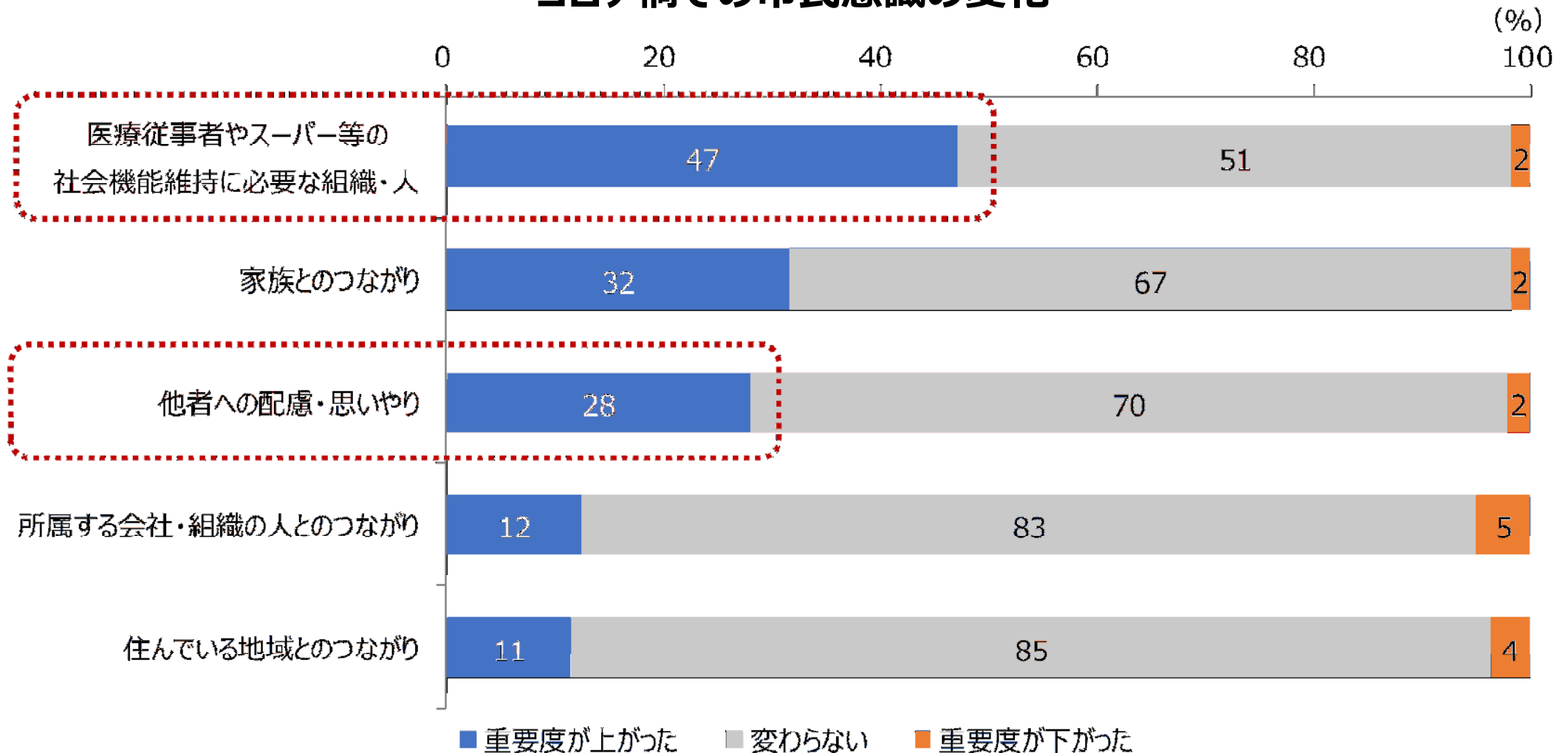
出所：三菱総合研究所「ポストコロナの世界と日本」（2020.7.14）



## 他者への配慮を通じた個人のウェルビーイング向上

- エssenシャルワーカー等、他者への配慮を重要視する傾向が強い

### コロナ禍での市民意識の変化

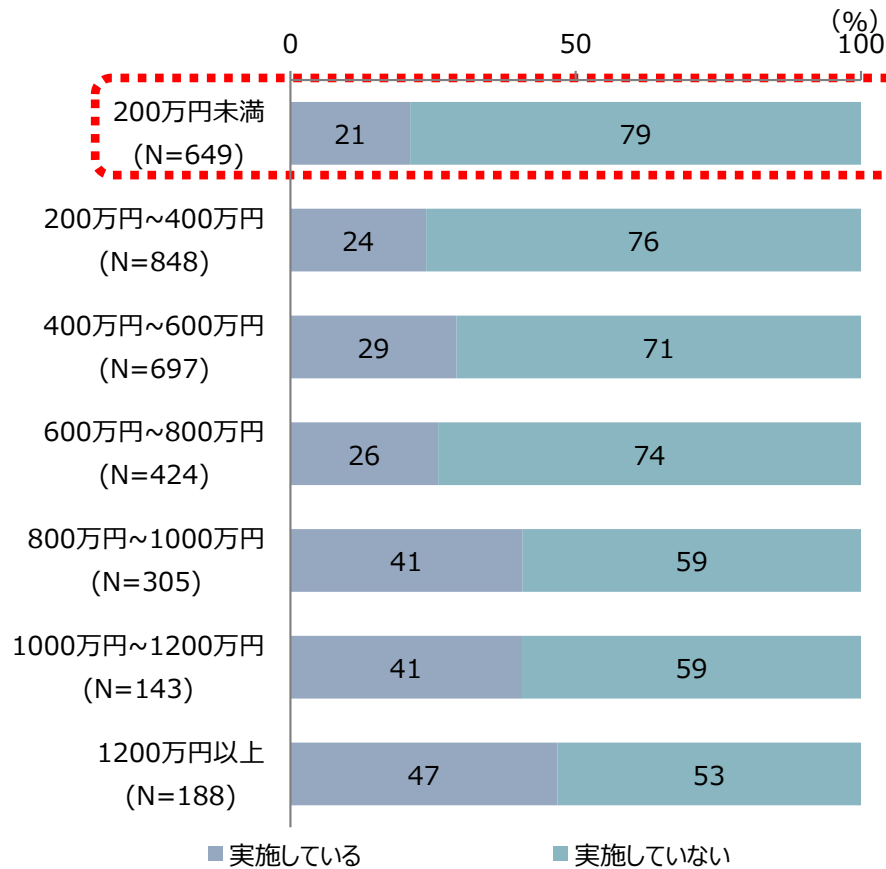


出所：三菱総合研究所「新型コロナウイルスを受けた意識変化アンケート調査」(N=5,000、2020年6月実施)より作成

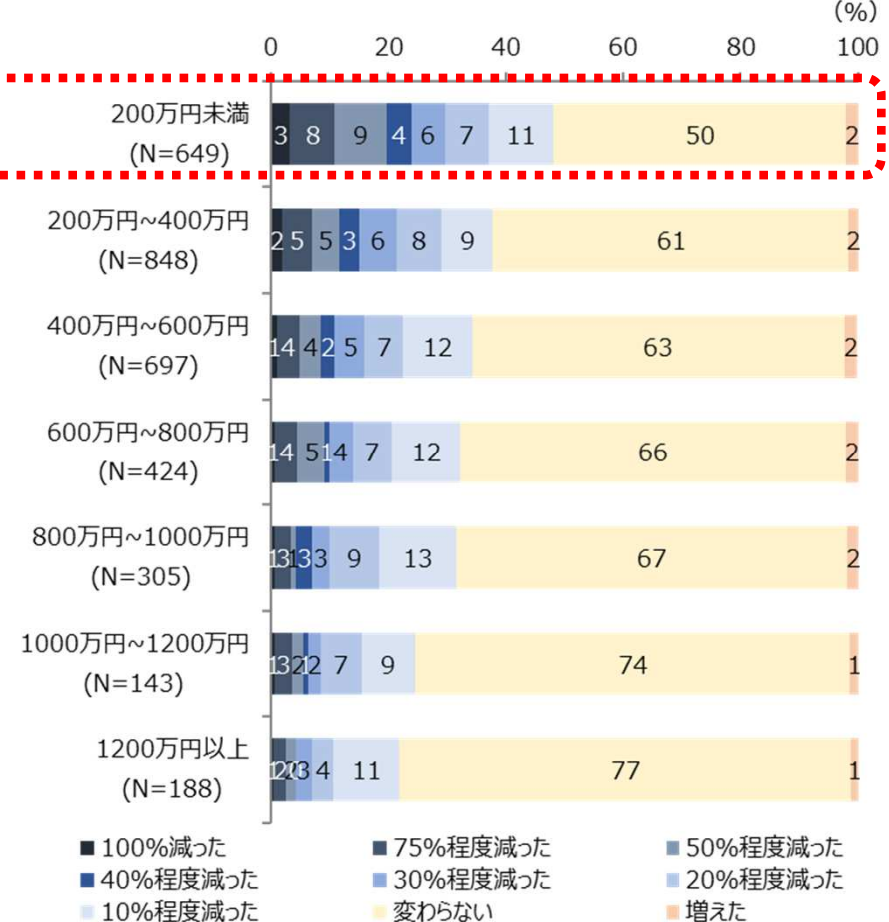
## 格差拡大を阻止するセーフティネットの提供

- 低所得者層のテレワーク実施率は低い一方、所得減少率は高い
- デジタルデバイドやその他の格差を緩和するセーフティネットの強化が不可欠

コロナ禍での収入階層別のテレワーク実施率



コロナ禍での収入階層別の所得減少率

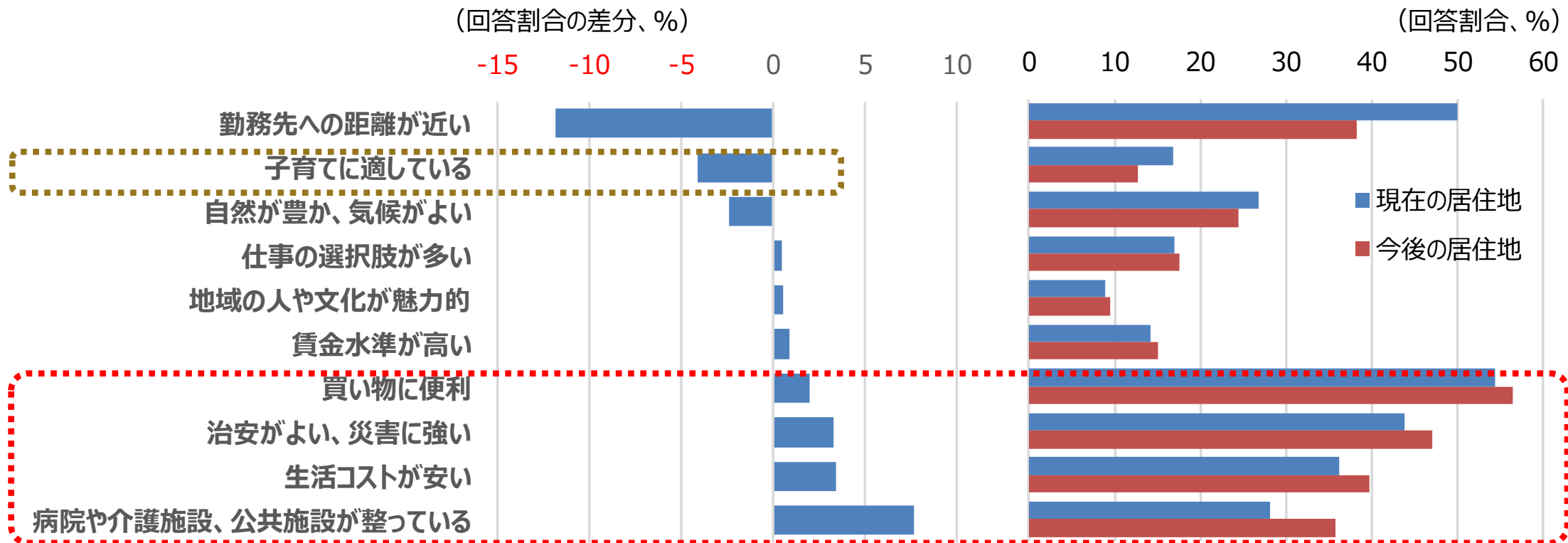


出所：三菱総合研究所「新型コロナウイルスを受けた意識変化アンケート調査」(N=5,000、2020年6月実施)より作成

# 地域の魅力は、職場に近いから高い生活の質へ

- 生活者は身近な生活圏でのつながりを重要視

## ポストコロナでの居住地選択理由

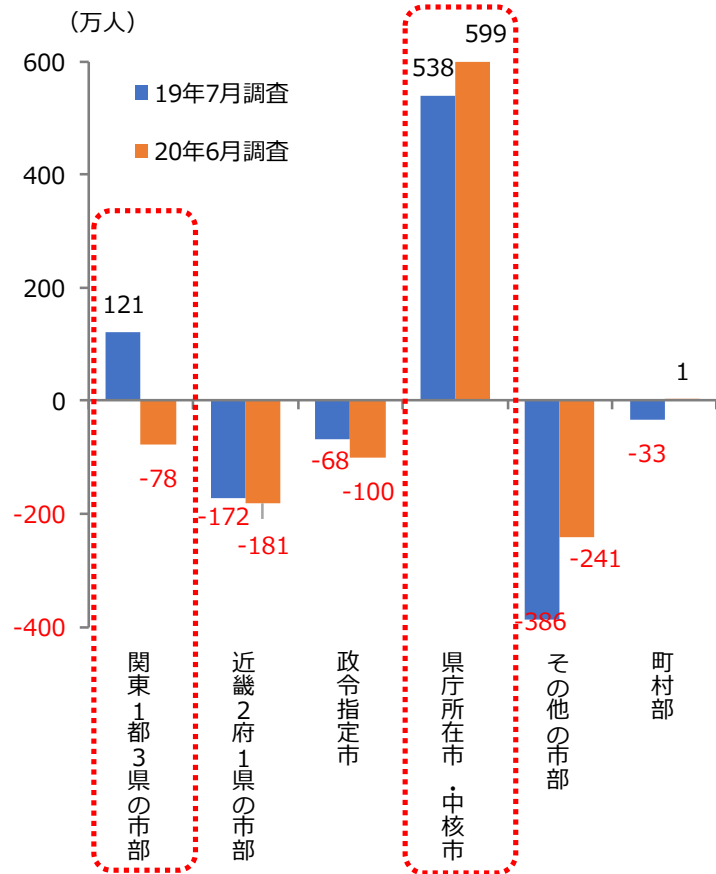


出所：三菱総合研究所「ポストコロナの世界と日本」（2020.7.14）

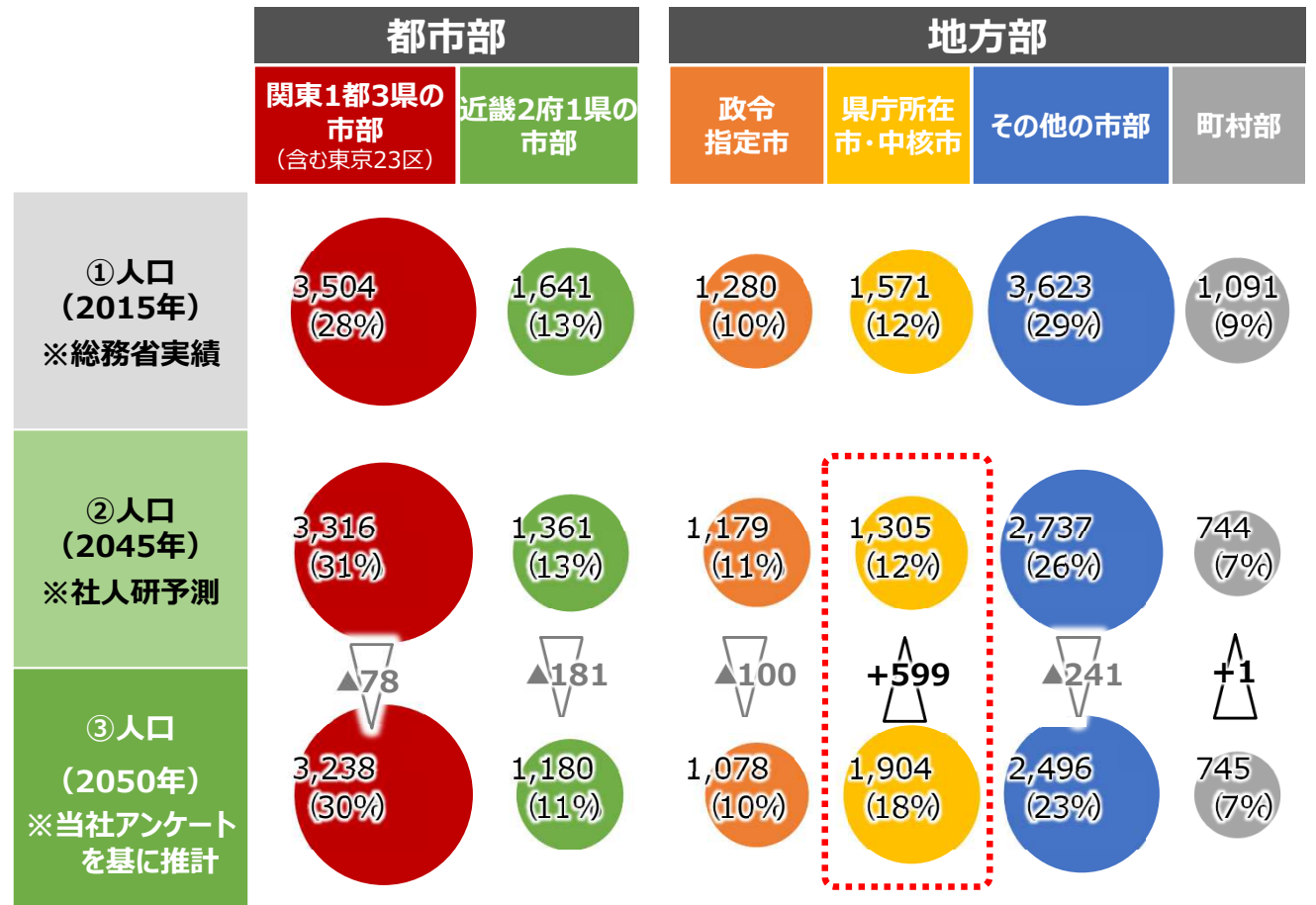
## 地域が生き残るには、人口減少と居住/勤務地選択へ適応

- コロナ後の試算では首都圏への人口流入が緩和、地方中核市への流入が増加
- 「東京一極集中」から中核市を中心とした「分散・多極化」に向かう可能性

コロナ前後の人口分布試算結果の比較  
(2050年人口分布試算と2045年社人研予測値の差分)



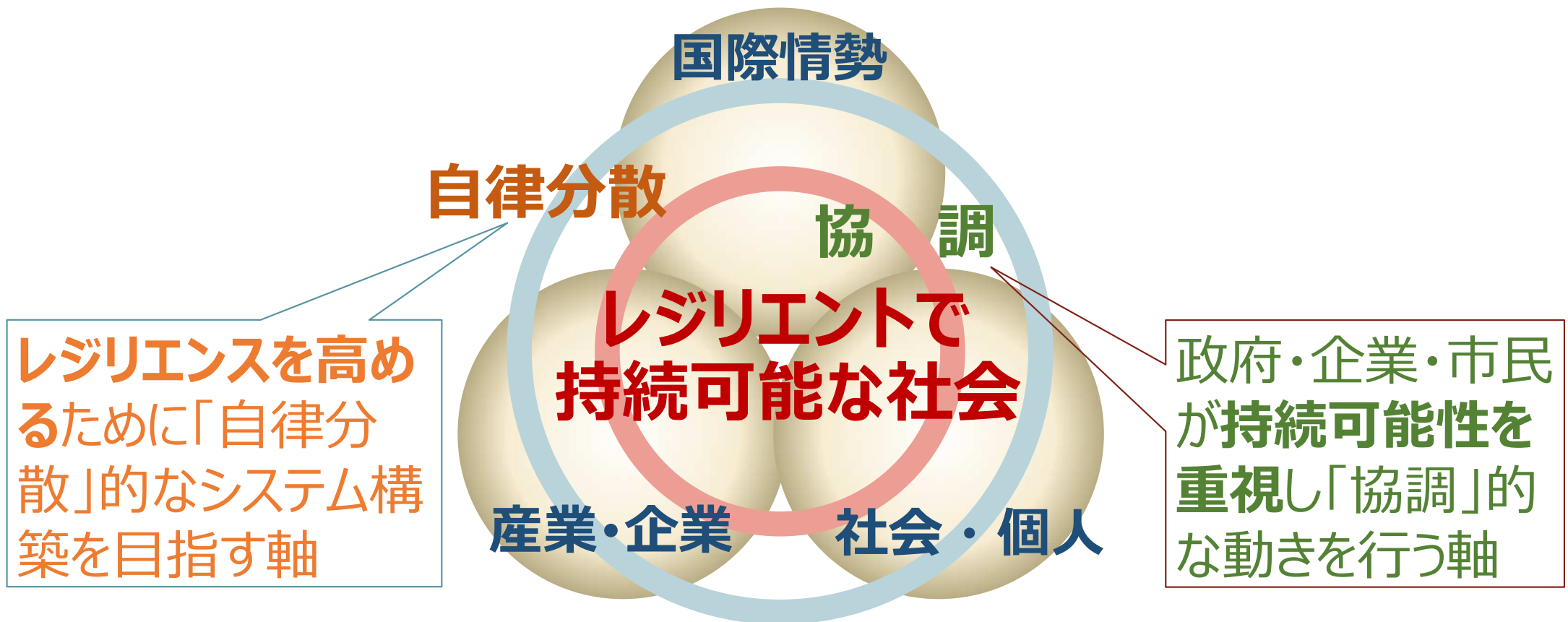
コロナ後の意識変化を踏まえた2050年人口分布試算 (万人)



注：二つの地域区分に該当する市部は、左側にある区分を優先（政令指定都市かつ県庁所在市である市は政令指定都市としてカウント）  
出所：三菱総合研究所「生活者市場予測システム (mif)」アンケート調査（2019年7月及び2020年6月実施、回答者は各5,000にん）より作成

# 目指すべきは「レジリエントで持続可能な社会」

## ■「自律分散」と「協調」の2つの軸





# 自律分散した地域において「人材力」、「起業力」、「地域力」が重要

地域力 = 自然・生活環境、食、歴史、文化、コミュニティなど

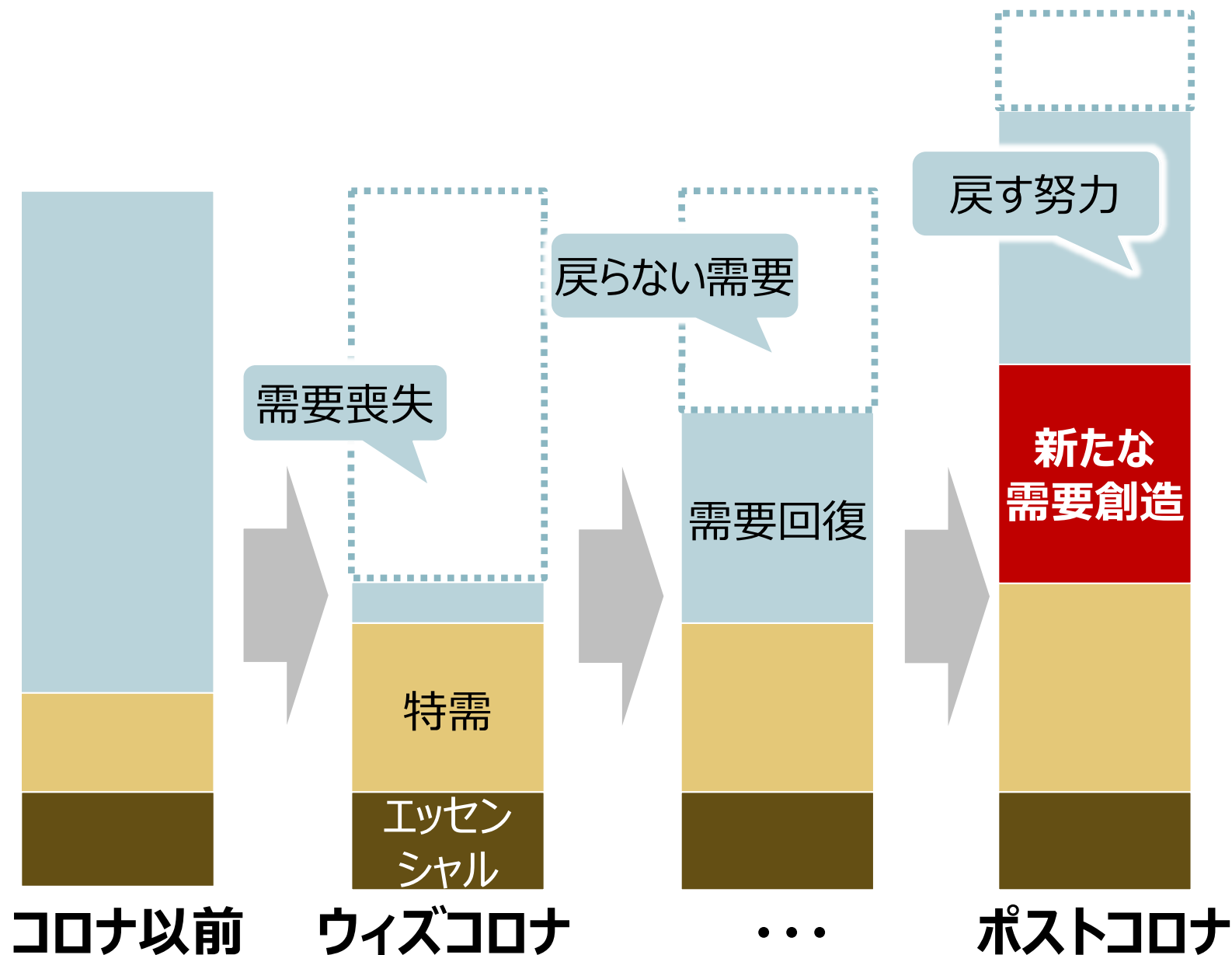


地域力が人材を惹きつける

自然・生活環境、食、歴史、文化、コミュニティなどをどう守り、強化していくか



# 「新常態」での新たな**需要創造**が不可欠



# 3

## 地域コイン／ポイントの意義・可能性 実証・実装事例紹介

# 地域コイン／ポイントによるインセンティブを活用して意識・行動変容を促し、課題を同時解決

## 1 自律分散・協調

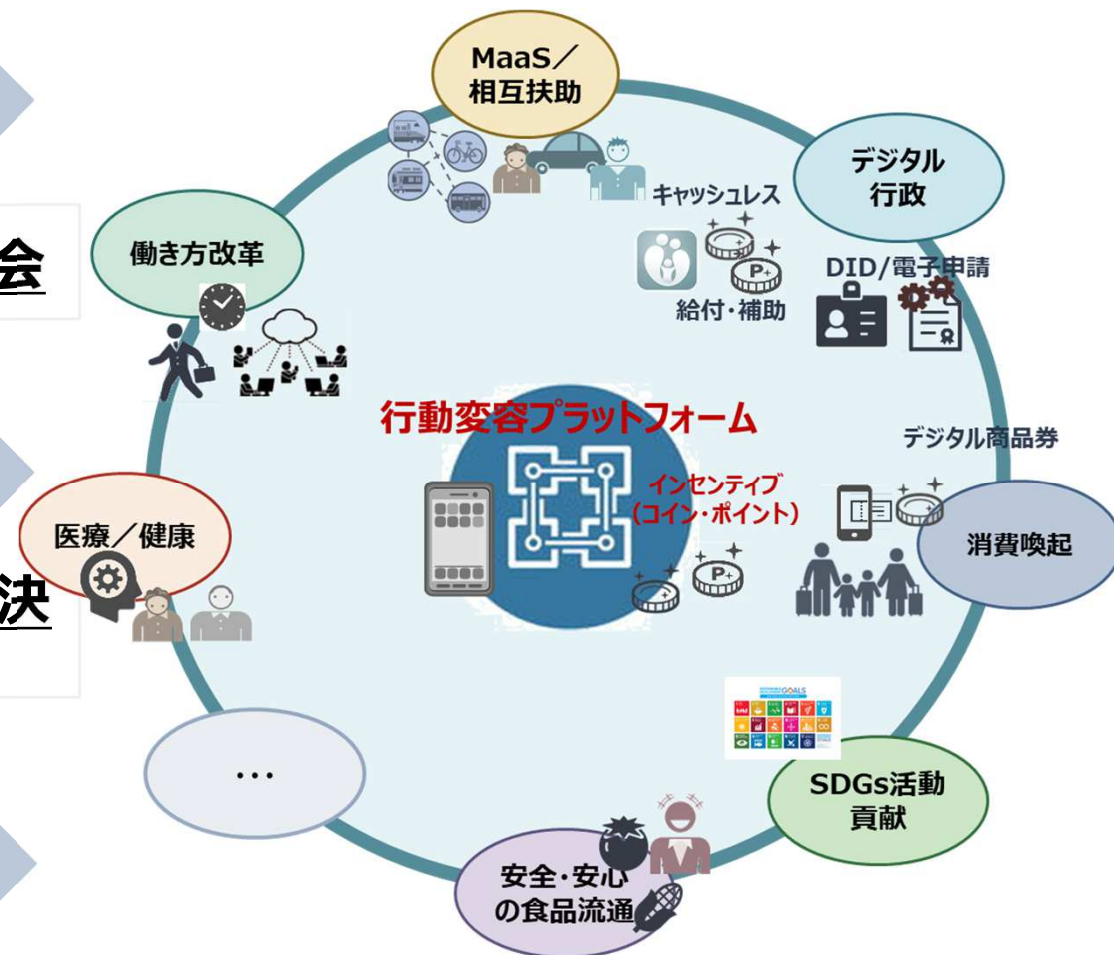
個の力、集団の力の再認識、利他社会

## 2 SDGs・Society5.0同時達成

技術でSDGs達成加速・地域課題解決  
地域力の強化

## 3 イノベーションプラットフォーム

繋がる、共有する、拡張する 経済活性化



※当社として、行動変容プラットフォームを構築

# 地域コイン／ポイントの実証・実装事例

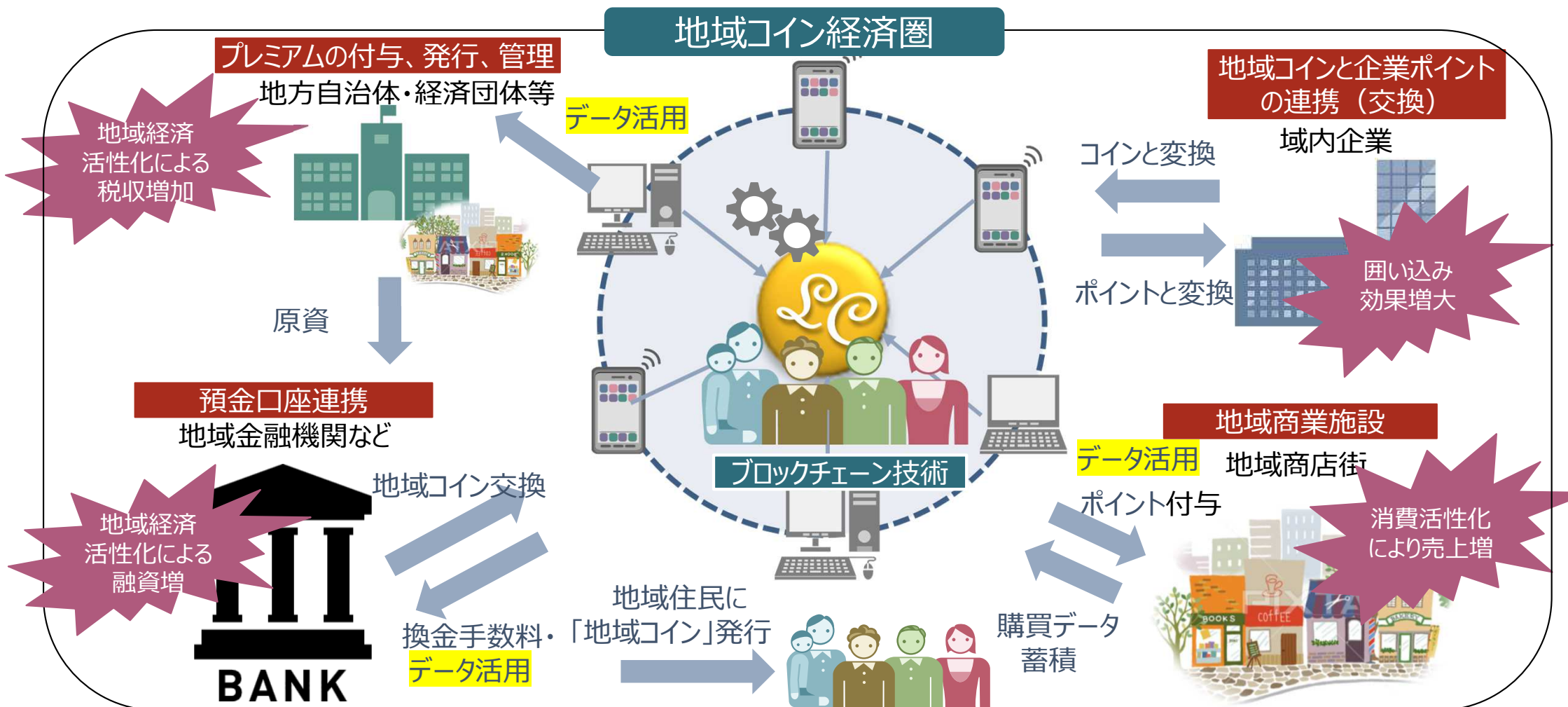
- 消費喚起を目的とした「**地域コイン**」への適用にはじまり、東京ユアコイン事業を契機に社会課題解決を目的とした「**地域ポイント**」へも適用。
- 様々な**価値の移転をマネジメント**し、それぞれの目標、課題の解決に貢献。

|                    | 2017年度              | 2018年度                          | 2019年度                                     | 今後、<br>多方面で社会実証・<br>実装 |
|--------------------|---------------------|---------------------------------|--|------------------------|
| 近鉄GHD共同事業<br>地域コイン | 9月～ 約1ヵ月<br>あべのハルカス | 10月～ 約2ヵ月<br>あべのハルカス<br>+ 周辺商店街 | 11月～ 約3ヵ月<br>近鉄しまかぜコイン                     |                        |
| 総務省BC実証<br>地域コイン   |                     | 2月～ 約1ヵ月<br>大阪市・浜松市・<br>福山市     |  |                        |
| 地域ポイント             |                     |                                 | 1月～ 約2ヵ月<br>東京ユアコイン<br>(オフィス型)<br>東京・大丸有地区 |                        |



# ①地域コイン <地域活性化の姿・メリット>

- 地域の消費活性化策として、地域の主体（地方自治体・地域に根付いた企業など）が**プレミアム付き地域振興券を“地域コイン”として発行**。プレミアムを付与することで**「消費を喚起」**。
- これまでの紙ベースの振興券をデジタル化して発行することで、**「流通の促進と管理コストを削減」**、**「データ活用による消費活性化策、個社ビジネス検討に活用」**。



# ①地域コイン「近鉄ハルカスコイン」 第2回社会実験 <概要>



■ 経済的インセンティブを**コイン**として与えることによって**消費活性**に結びつけることが可能なことを実証



- 通貨名称 : 近鉄ハルカスコイン (発行主体: 近鉄グループホールディングス株式会社)
- 通貨概要 : プレミアム10%、10,000円に対し11,000コイン発行(1 コイン=1円相当)
- 実験期間 : 2018年10月1日~12月10日
- 実験店舗 : あべのハルカス、周辺の商業施設、商店会、動物園、美術館等/約400箇所
- 参加者 : 3,118名
- 特徴 : ハイブリッド決済方式(動的及び固定QRコードの両方に対応)、譲渡機能、減価機能、チャージ機(現金)、電子スタンプラリー



固定QRコード方式



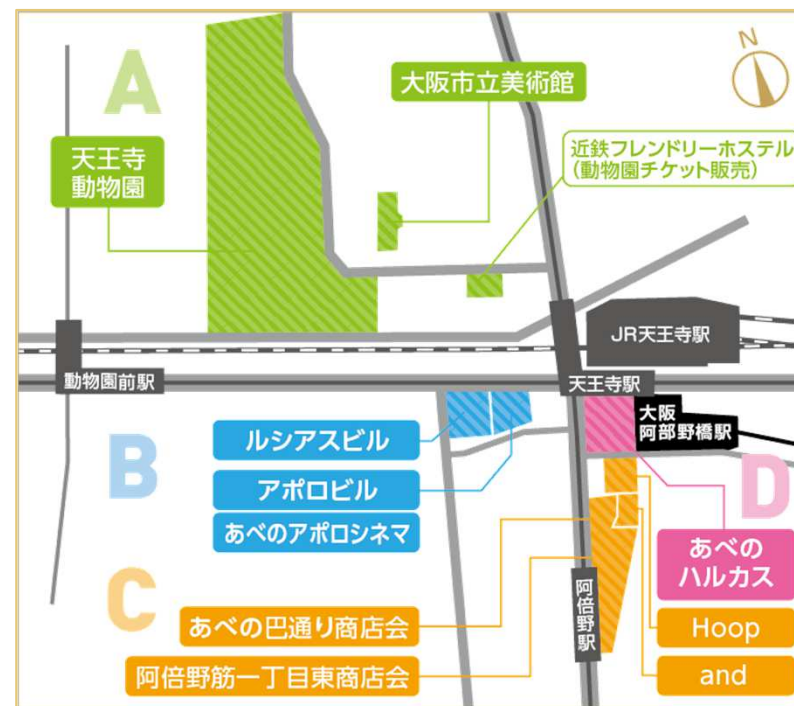
チャージ機  
※近鉄資産の活用



動的QRコード方式



譲渡機能  
(ワリカン、寄付に活用)



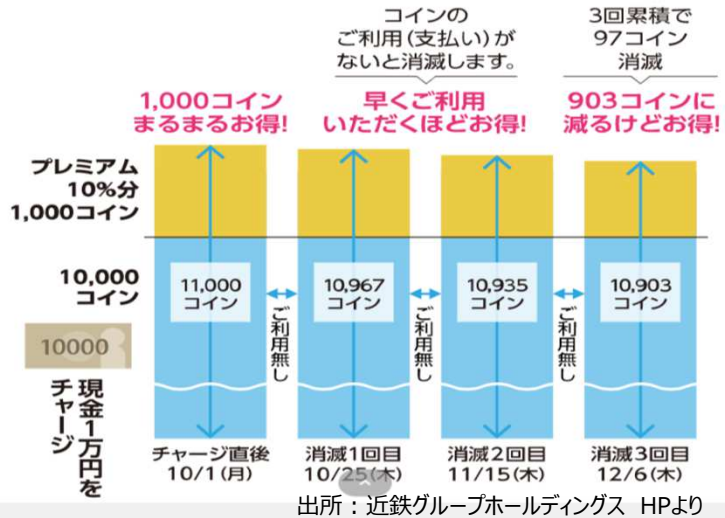
出典: 近鉄ハルカスコイン第2回社会実験 コインが使える店舗/キャンペーン  
<https://www.kintetsu.co.jp/group/Kips/harukas-coin/list.html>

# ①地域コイン 導入のメリット 1 (プレミアム付与・減価による消費促進)

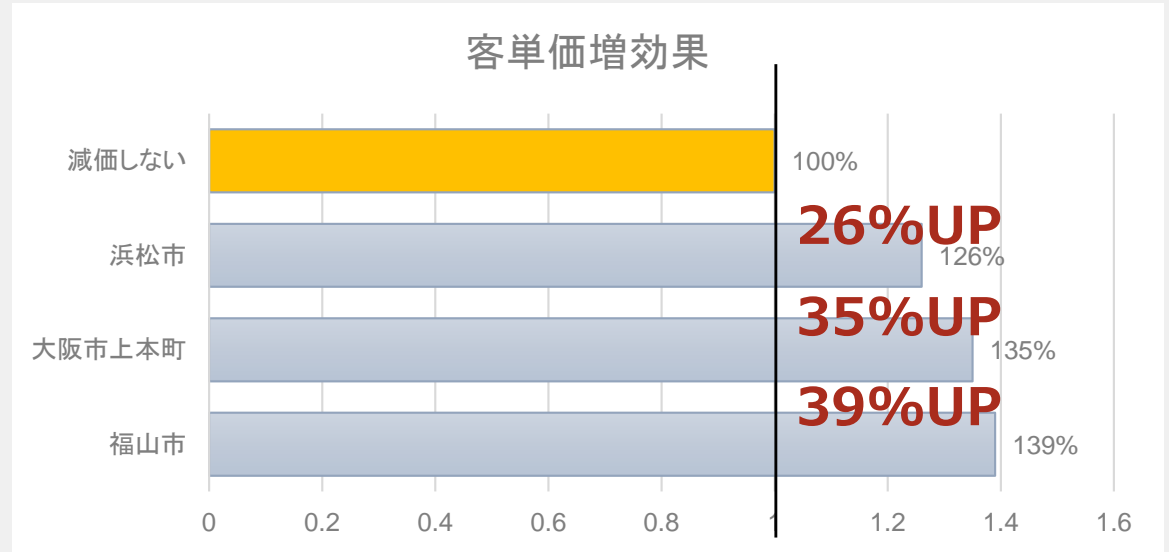
## 期間限定 (消滅) コインの消費促進効果

- 利用がなければプレミアムの一部が消滅

例 10/1に10,000円チャージして、1度もご利用がない場合

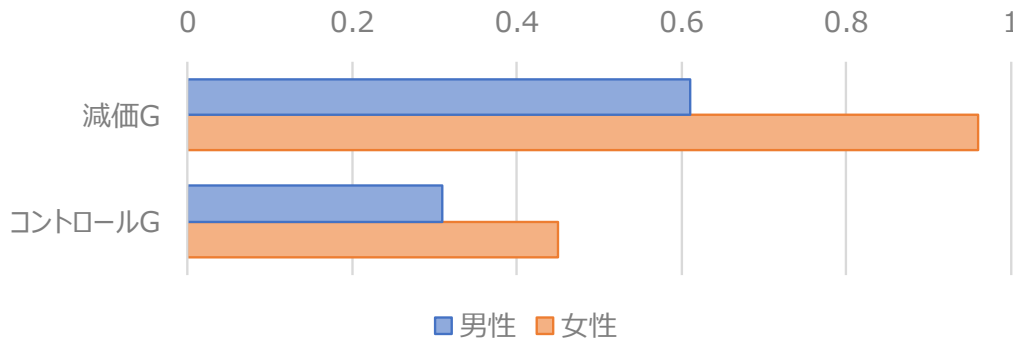


- 消費促進効果 (客単価アップ率)

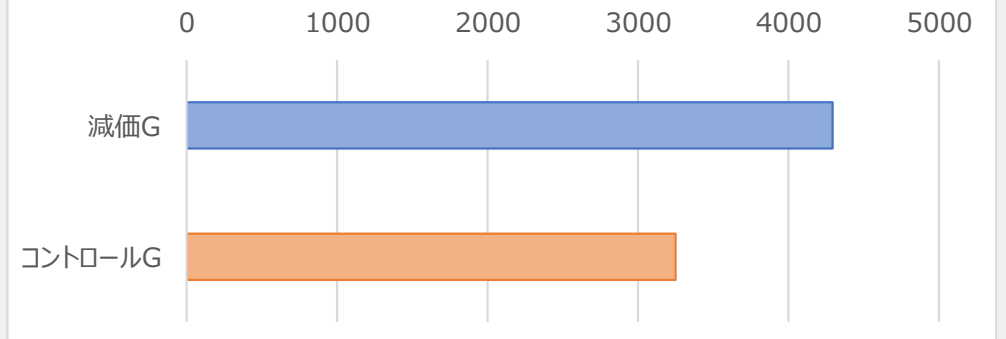


## 期間限定 (消滅) コインの行動変容・客単価増効果

減価回避率



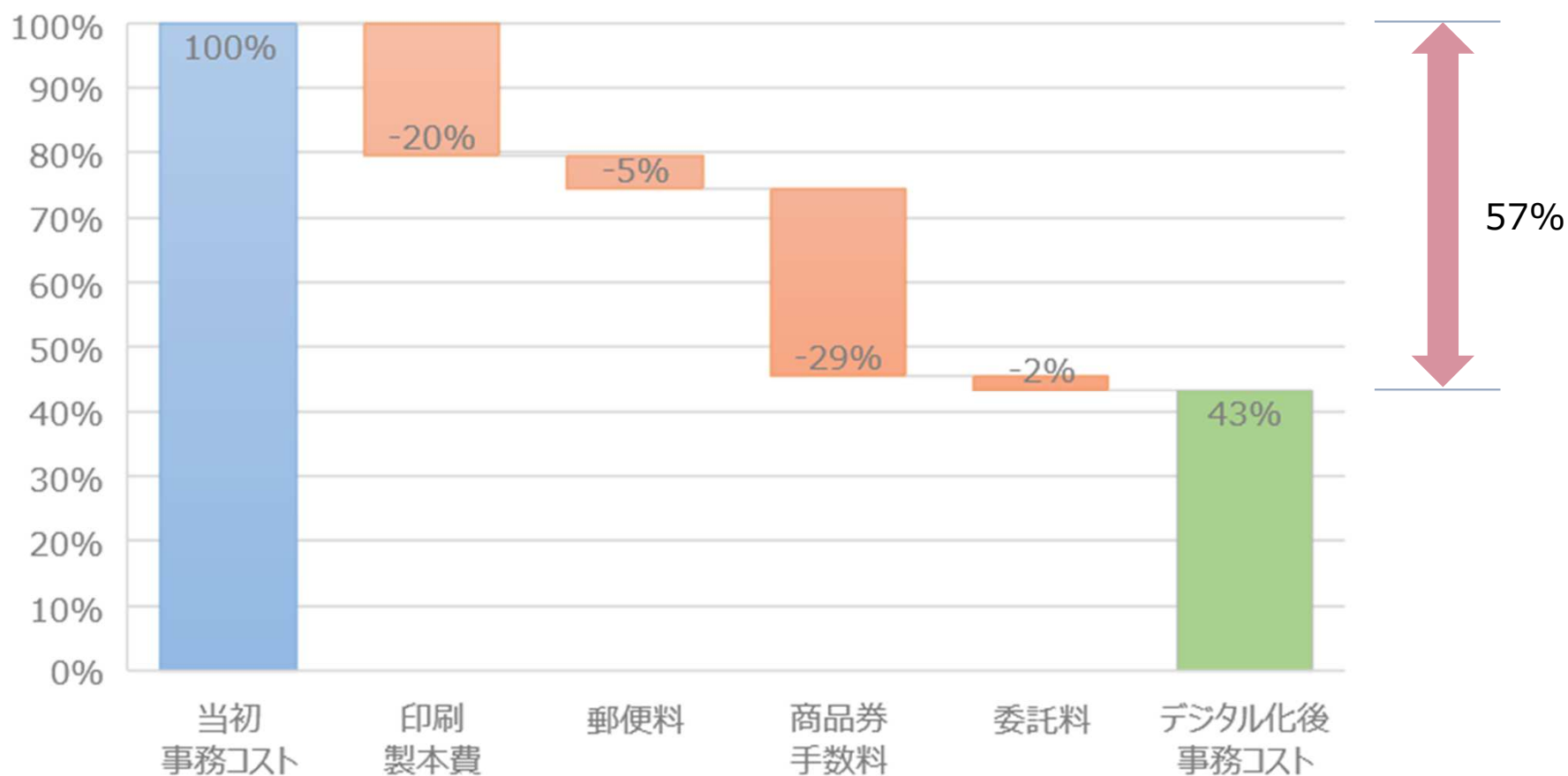
利用単価



## ①地域コイン 導入のメリット2 (コスト削減効果～浜松市の場合～)

- 地域商品券をデジタル化した場合、最大57%の事務コストの削減が期待できる\*1
- 印刷製本費や商品券の取り扱いにかかる手数料の削減効果大きい

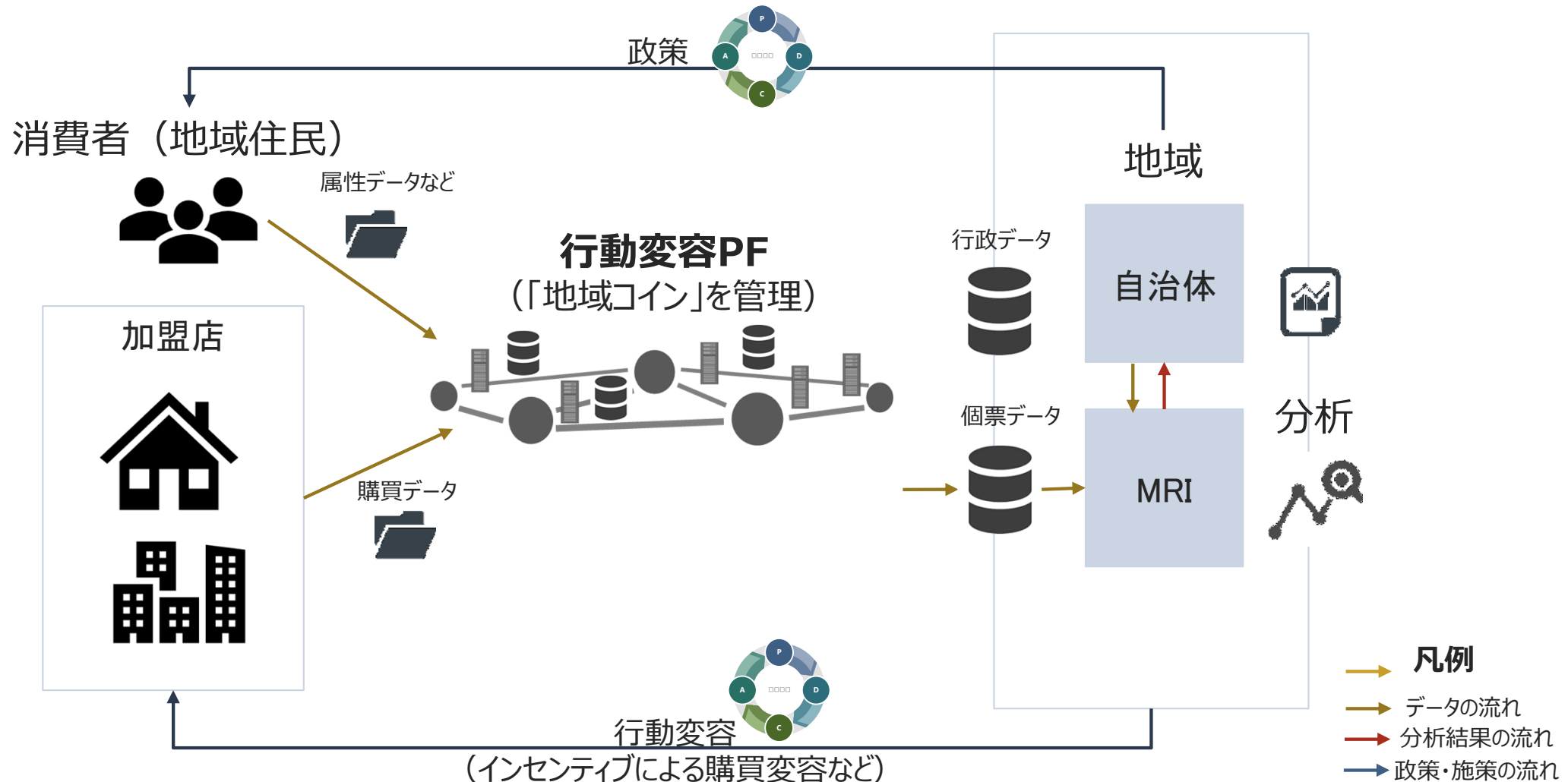
事務コスト削減効果 (紙で商品券を発行していた時との比較)



\*1コスト構造は自治体の規模や事業内容によって異なる可能性があり、その場合、削減効果も変化する。また、デジタル化に伴うシステム費用は考慮していない。

# ①地域コイン 導入のメリット3 (利用実績データのマーケティング活用)

- 地域住民のリアルタイムな消費行動等が、属性などと合わせてデータ化されることで、タイムリーなマーケティングデータを得ることが可能
- インセンティブの付与・減価などの効果を検証することで、より効果的な運用が可能





## ②地域ポイント「東京ユアコイン」実証 <実証目的・全体像>

- ✓ 東京都が都民の「SDGs達成」と「キャッシュレス」の推進を目的とした実証実験。
- ✓ **SDGs活動実施者に「東京ユアコイン」という独自のポイントを発行**、地区内外で利用可能。

|          |   |
|----------|---|
| 対象地区・対象者 | 千代田区大手町・丸の内・有楽町地区のオフィスワーカー・来街者 7,345人（SDGs活動実施者ベース） |
| 実証期間     | 2020年1月9日～2月28日                                     |
| ポイント発行   | 全体で2500万ポイント、一人当たり上限7,500ポイントまで（上限に達した場合、ポイント付与不可）  |
| 実験の参加方法  | 実証用アプリ（スマートフォン用）                                    |

### SDGs活動の誘発

東京ユアコイン（オフィス型）の付与機会

### キャッシュレスの推進

東京ユアコイン（オフィス型）の利用用途

各オフィスワーカーのSDGs活動に対し、貢献の対価としてポイントを付与

#### 1 時差Biz推進

- ①協力企業の社員による  
オフピーク通勤・テレワーク等
- ②オフピーク通勤に寄与する朝カフェ利用
- ③オフピーク通勤に寄与する朝活・夕活への参加

#### 2 プラスチックごみの削減

- ①大手コンビニ3社の対象店舗、マルシェでのノーレジ袋による購入
- ②ドラッグストアにおけるノーレジ袋およびキャッシュレス決済による購入
- ③カフェの対象店舗におけるマイタンブラーでの購入
- ④リサイクル可能な容器を使った「エコ弁」購入及び指定場所への返却

活動参加者に活動実施場所でポイント付与（動的QRコードの読取）



大手町・丸の内・有楽町エリア

### 東京ユアコイン（オフィス型）



QR決済によるポイント消費



実証期間中に大丸有内の対応店舗での支払いにポイントを利用

地区内のキッチンカー、マルシェ、協力店舗（カフェ、ドラッグストア）における購買

他のポイントに交換

以下から希望するポイントに交換可能



SDGs貢献団体への寄付

大丸有地区でのSDGs活動を支援する基金「エコ結び」



みだんを築える。むりなく築える。果実が変わる。



## ②地域ポイント「東京ユアコイン」実証 <実証の仕組み>

- ✓ 本実証実験では専用のスマートフォンアプリをDL・アカウント登録により参加可能。東京ユアコイン（オフィス型）のポイントの獲得や利用、ポイント交換・個人間送金等はすべてアプリを通じて行う。
- ✓ **SDGs活動や特典の受領の「ポイント付与」は動的QRコードの読み取りにより実施。**
- ✓ **店舗等での「ポイント利用」は、店舗等に設置された静的QRコードを読み取り、PINコードや利用金額の入力により実施。**ポイント交換・寄付も当該アプリにて実施。



ポイント付与については不正獲得・セキュリティ対策として2点実施

- ①動的QRコード（1分間で自動更新）により、画像流出を防止
- ②同一のQRコードのポイントは1日1回しか受領できない



出典：東京ユアコイン（オフィス型）アプリ利用手順書（東京ユアコイン（オフィス型）実証実験HP掲載,2020年2月28日閲覧）を基に作成



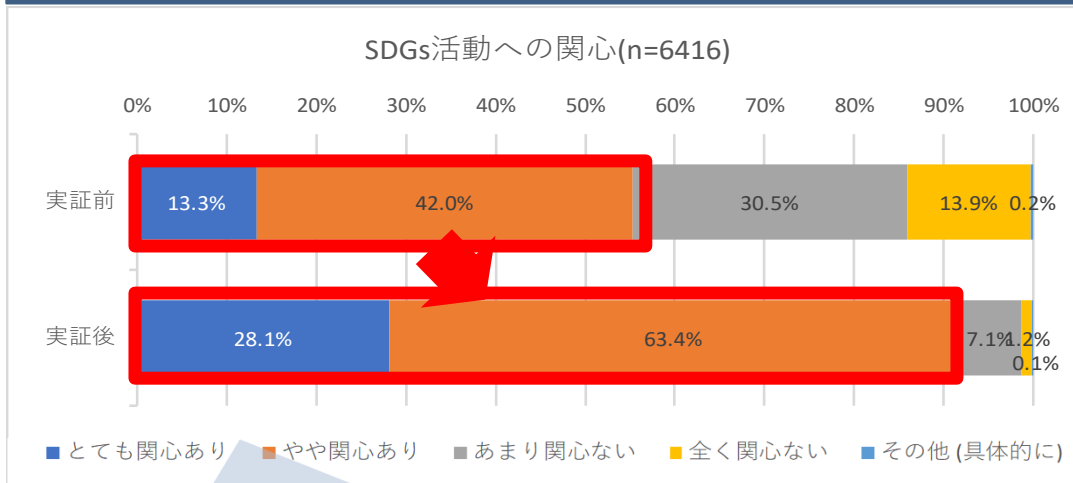
## ②地域ポイント「東京ユアコイン」実証 <成果②>

日常の行動の中にSDGs貢献機会があることを



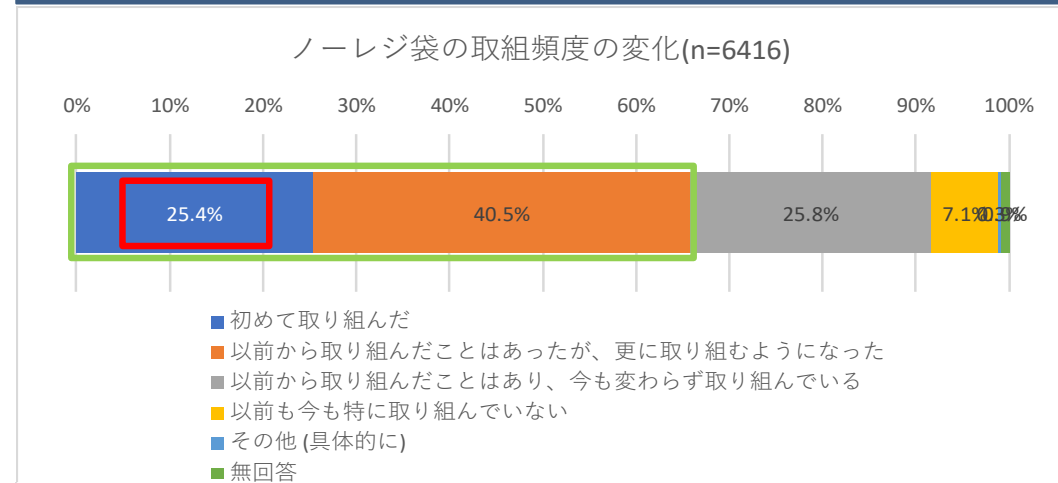
- ✓ 「認知」「関心」「実践」「(行動の)拡大/反復」「定着」といった行動変容プロセスに着目し、計測。
- ✓ いずれのステップにおいても向上。**特に「認知」「関心」を高めることに寄与。**

### SDGsへの関心（実証前後）



実証参加後には、「関心がある」層が拡大

### SDGs活動の誘発効果（ノレジ袋の場合）



インセンティブが「初めて実施」「取組頻度増」のきっかけに。

最初はポイント数の高さが魅力で始めたが、環境への興味が増した。



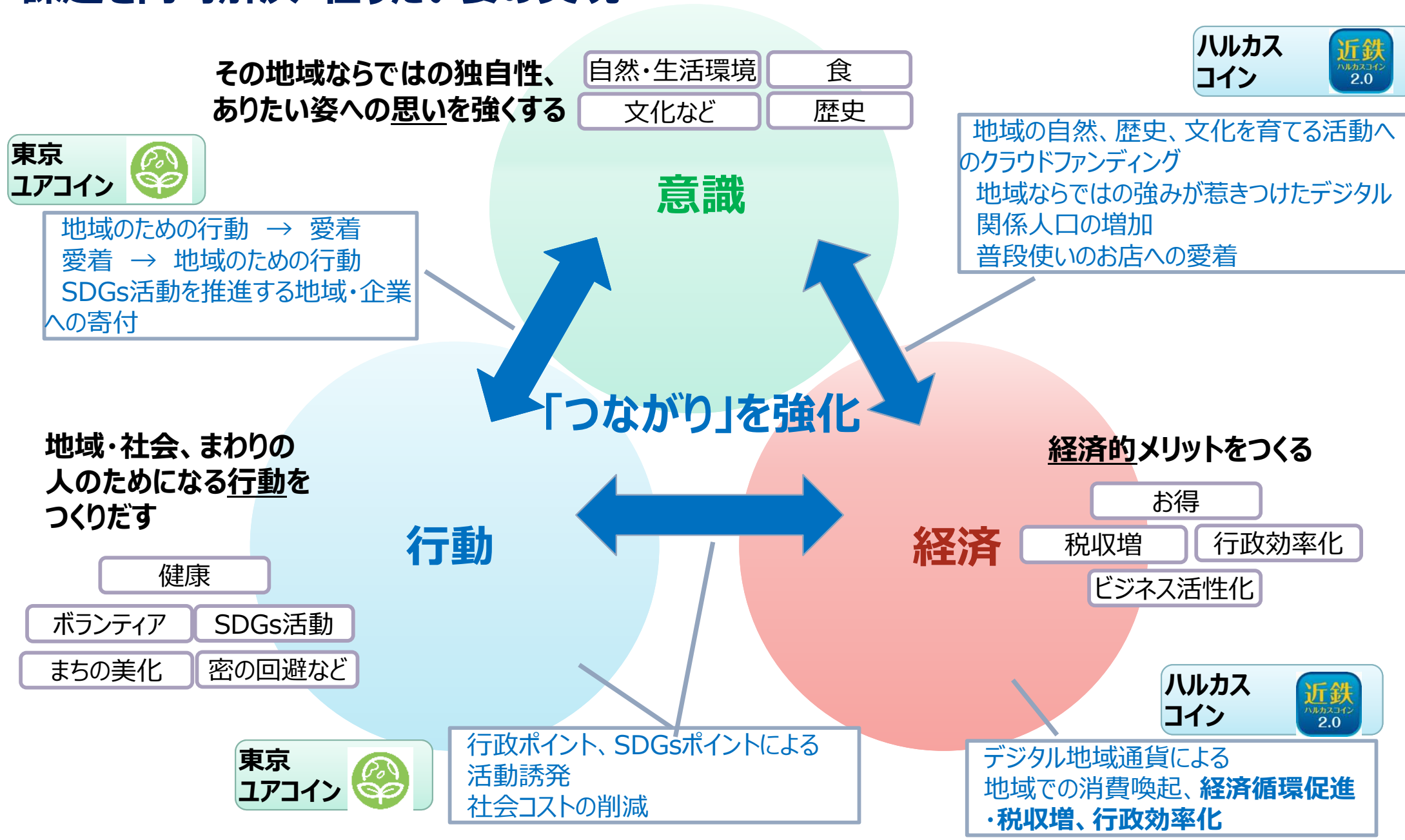
SDGsの大切さを説いても浸透しないし、当たり前の価値観にするためのきっかけづくりが大事。

出典：東京都データカタログ「キャッシュレスの推進に関する令和元年度モデル事業(東京ユアコイン)アンケート調査結果」(2020年7月6日DL)のデータを用いてMRI作成  
<https://catalog.data.metro.tokyo.lg.jp/dataset/t000029d00000000004>



## まとめ

# 地域コイン／ポイントによるインセンティブを活用して意識・行動変容を促し、地域課題を同時解決・在りたい姿の実現

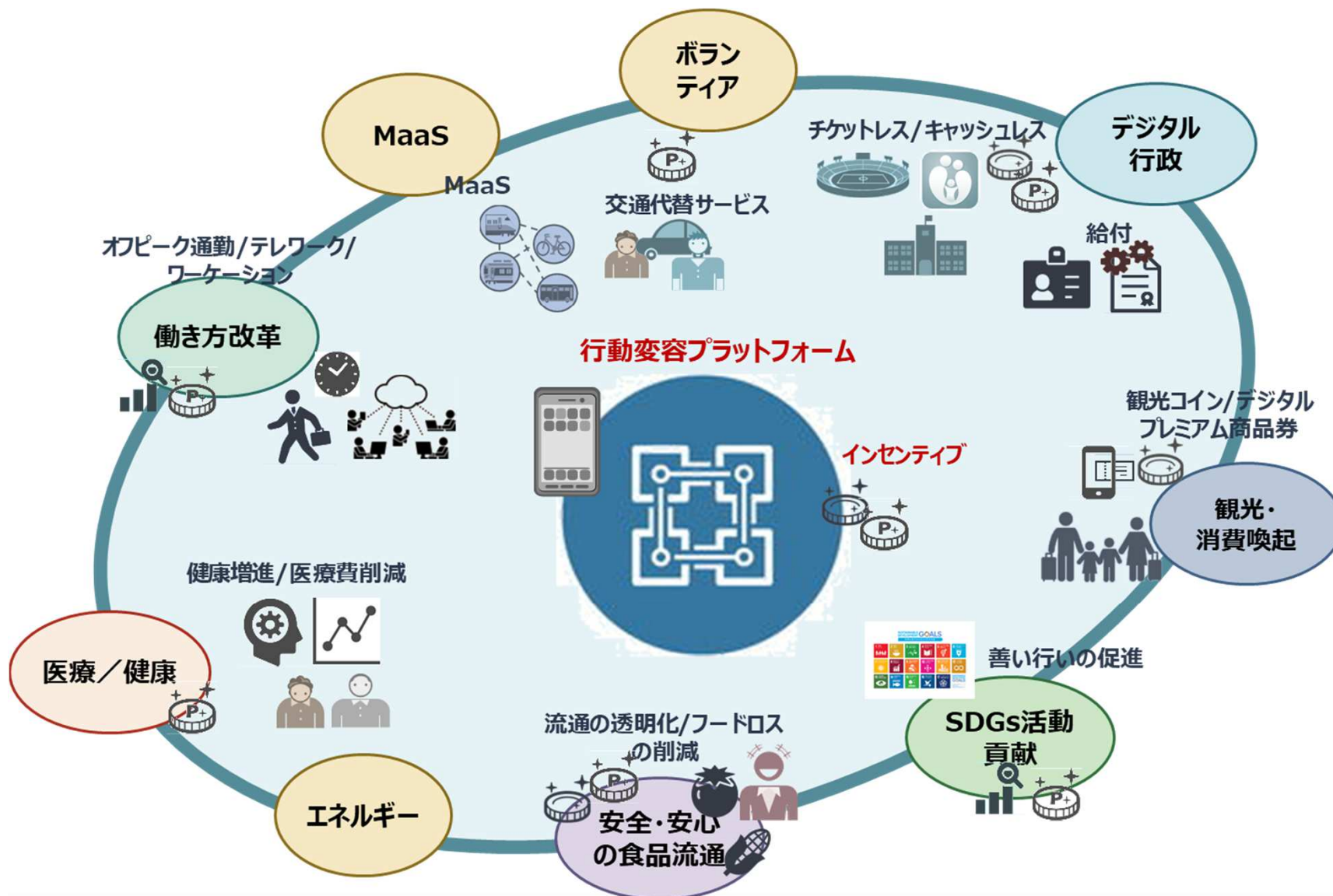




# 参考

## 行動変容プラットフォームの概要（当社開発）

✓ **経済的インセンティブの発行・利用を動機づけとするシステム**（行動変容PF）を用い、様々な地域課題を同時に解決することを目指す仕組み。

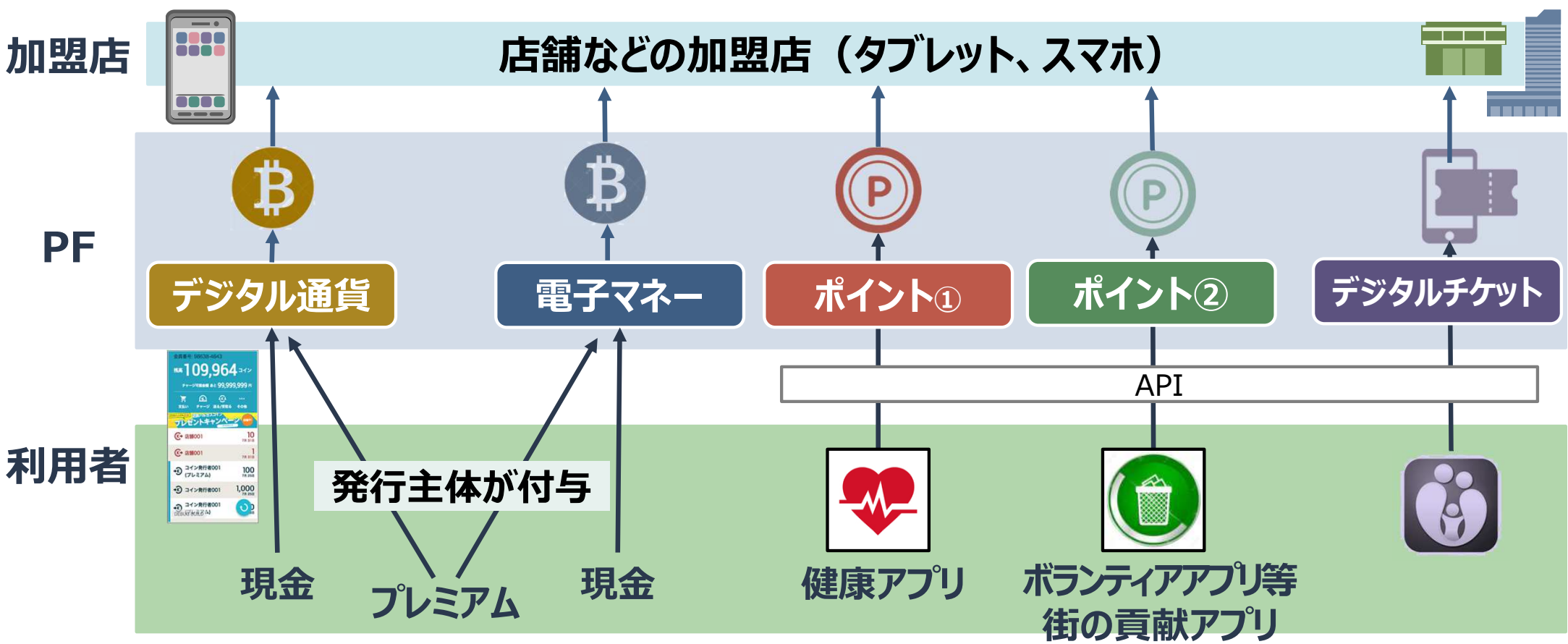




# 参考 行動変容プラットフォームの概要（当社開発）

■ 行動変容PF：「地域コイン」や「地域ポイント」を発行・付与、管理するための仕組み

- ✓ 【セキュリティ・コスト効率】**ブロックチェーン技術の活用により、一つのプラットフォームで、コイン・ポイント・チケットなど複数の経済的価値をもったモノの管理**が可能（下図参照）
- ✓ 【導入の容易性】**スマホアプリ×QRコード**でのポイント付与・利用
- ✓ 【行動誘発】コインの価値を（キャンペーン期間等に応じて）変更できる**「減価・消滅」機能**の特許



# 圏域ネットワークが市民サービスを連携・提供、新しい需要を創出

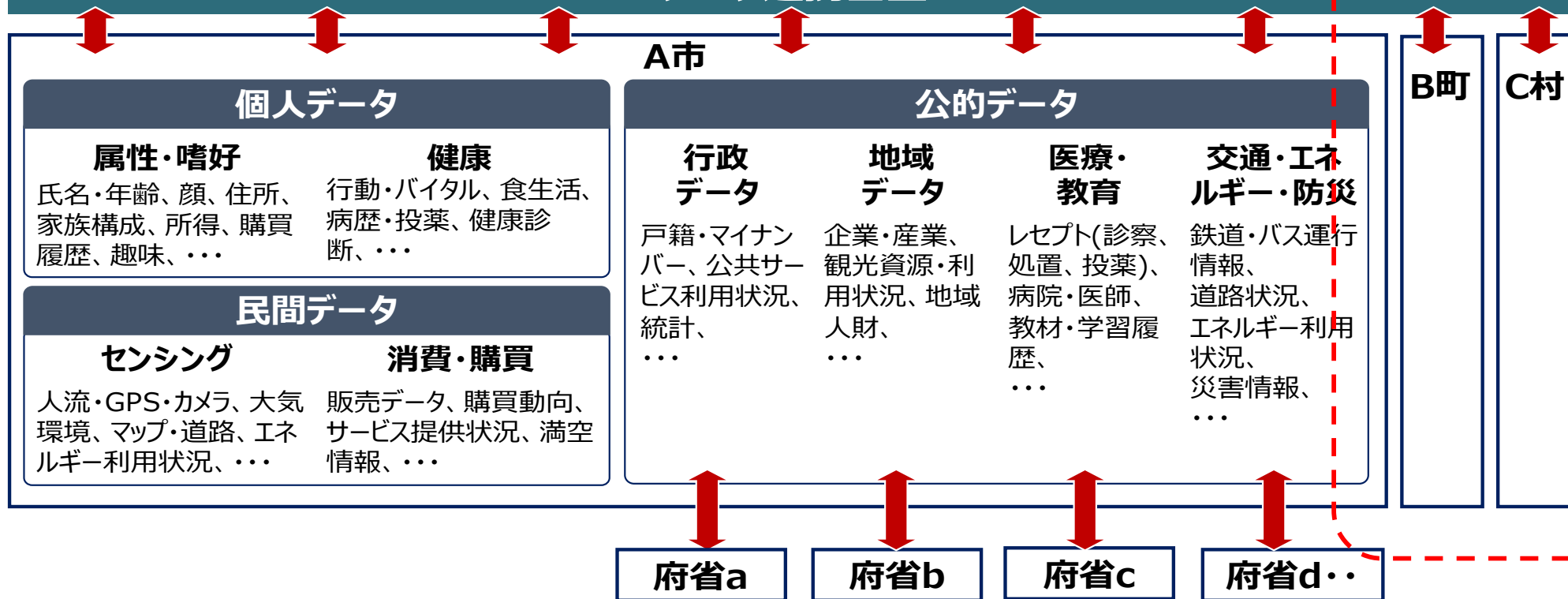
生活者の満足度向上・新しい需要の創出

サービスの連携・提供

## 行動変容プラットフォーム

地域コイン／ポイントによるインセンティブを活用して意識・行動変容を促し、  
地域課題を同時解決・在りたい姿の実現

データ連携基盤



出所：三菱総合研究所「目指すべきポストコロナ社会への提言」（2020.10.19）

ご清聴ありがとうございました。